

令和4年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第1号
(4月の発生予想)

令和4年4月1日

<p>【作物名】 病害虫名</p>	<p>予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比</p>	<p>予報の根拠</p>
-----------------------	--	--------------

【大麦】

<p>赤かび病</p>	<p>量：並 程度：少発生 時期：並</p>	<p>① 前年の発生は平年並で、伝染源量は平年並と推定される。(±) ② 3ヶ月予報では、5月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(±)</p>
<p>雲形病</p>	<p>量：少ない 程度：少発生</p>	<p>① 前年の発生は平年比やや多く、伝染源量は平年比やや多いと推定される。(＋～±) ② 3月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ③ 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)</p>

【冬春トマト（施設）】

<p>灰色かび病</p>	<p>量：やや少ない 程度：少発生 (果実発病度1～20)</p>	<p>① 3月下旬の発生は、葉での発病は平年並、果実での発病は平年比やや少ない。(±～－) ② 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)</p>
<p>【防除上の留意事項】 ① 株の繁茂やハウス内湿度の上昇は発生を助長するので、送風、換気等を行い施設内の湿度低下に努める。 ② 咲き終わった花卉やチップバーン等は速やかに取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。 ③ 予防に重点をおいた薬剤散布を行う。ただし、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同じ作用機構を持つ薬剤の連続使用は避ける。</p>		
<p>アブラムシ類</p>	<p>量：やや多い 程度：少発生 (寄生株率1～10%)</p>	<p>① 3月下旬の発生は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)</p>
<p>コナジラミ類</p>	<p>量：やや多い 程度：少発生 (1複葉当たり寄生数0.01～9)</p>	<p>① 3月下旬の発生は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)</p>
<p>アザミウマ類</p>	<p>量：やや多い 程度：少発生 (寄生花率1～10%)</p>	<p>① 3月下旬の寄生は平年並(±)、白ぶくれ症果の発生は近年比やや少ない。(－～±) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)</p>

<p>【作物名】 病害虫名</p>	<p>予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比</p>	<p>予報の根拠</p>
-----------------------	--	--------------

【冬春いちご（施設）】

<p>灰色かび病</p>	<p>量：やや少ない 程度：少発生 (発病果率1～5%)</p> <p>【防除上の留意事項】 ① 多湿条件で発病が多くなるため、茎葉が過繁茂の場合は下葉を除去し、風通しを良くするとともに、かん水過多にならないよう注意する。 ② 発病した葉や果実等は速やかに取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。 ③ 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同じ作用機構を持つ薬剤の連続使用は避ける。</p>	<p>① 3月下旬の発生は、葉での発病は平年並、果実での発病は平年比やや少ない。(±～－) ② 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)</p>
<p>うどんこ病</p>	<p>量：並 程度：少発生 (発病果率1～5%)</p>	<p>① 3月下旬の県予察ほ場における発生は、葉での発病は平年比やや少なく、果実の発病は平年並。(±～－) ② 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(＋)</p>
<p>コナジラミ類</p>	<p>量：並 程度：少発生 (寄生葉率1～25%)</p>	<p>① 3月下旬の発生は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)</p>
<p>アザミウマ類</p>	<p>量：やや多い 程度：少発生 (寄生花率1～2%、 被害果率1～5%)</p>	<p>① 3月下旬の発生は花への寄生は平年比やや多く、果実の被害は平年並。(±～＋) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)</p>
<p>アブラムシ類</p>	<p>量：やや多い 程度：少発生 (寄生株率1～25%)</p>	<p>① 3月下旬の発生は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)</p>
<p>ハダニ類</p>	<p>量：多い 程度：少発生 (寄生株率1～40%)</p>	<p>① 3月下旬の発生は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)</p>

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病虫害雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多
いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発
生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2：「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、
(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使
きましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の
生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしま
しょう。

新潟県病虫害防除所業務課

電 話：0258-35-0867

F A X：0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

【参考】北陸地方 1か月予報（4月2日から5月1日までの天候見通し）

（新潟地方气象台：令和4年3月31日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、

1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

2週目は、高い確率50%です。

3～4週目は、高い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	10	40	50
降 水 量	40	40	20
日照時間	20	40	40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1週目（4月2日～4月8日）	20	40	40
2週目（4月9日～4月15日）	20	30	50
3～4週目（4月16日～4月29日）	20	30	50